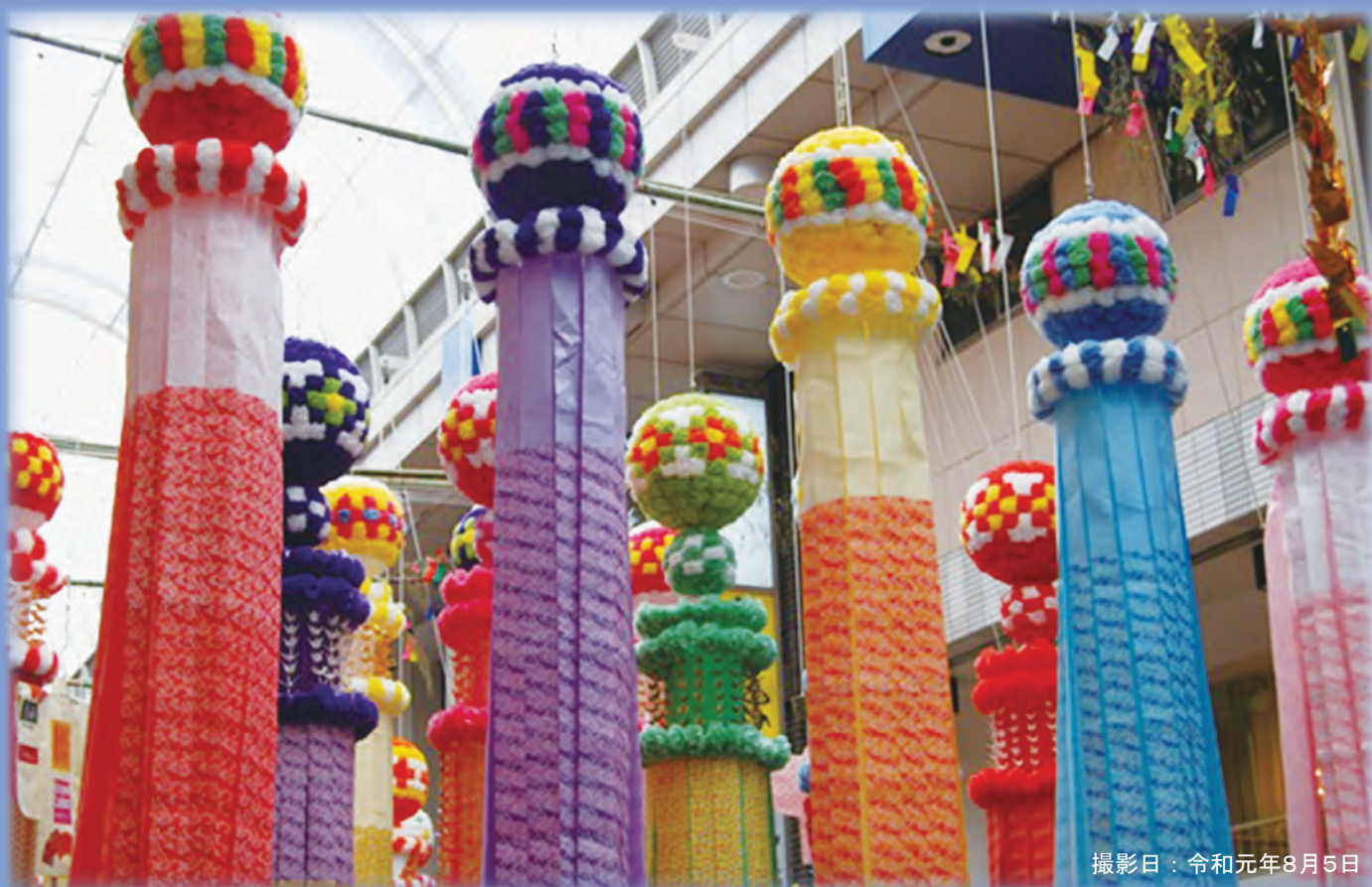




東北のかなめ

vol.47 (2019.9)



撮影日：令和元年8月5日

★ 伊達政宗公の時代より続く伝統行事 ★ 「仙台七夕まつり」 ★

【CONTENTS】

- ✓ 沖縄県道104号線越え「米軍実弾射撃訓練の分散・実施」
- ✓ トピックス
 - ・「第39回防衛セミナー(青森市)」開催
 - ・日米交流事業「かかし作り交流プロジェクト(つがる市)」
- ✓ 人事異動～新幹部紹介～
- ✓ 「ようこそわが街へ」～岩手県紫波町～
- ✓ 業務紹介「郡山防衛事務所」.
- ✓ インフォメーション

東北防衛局による訓練支援(現地連絡本部の設置)

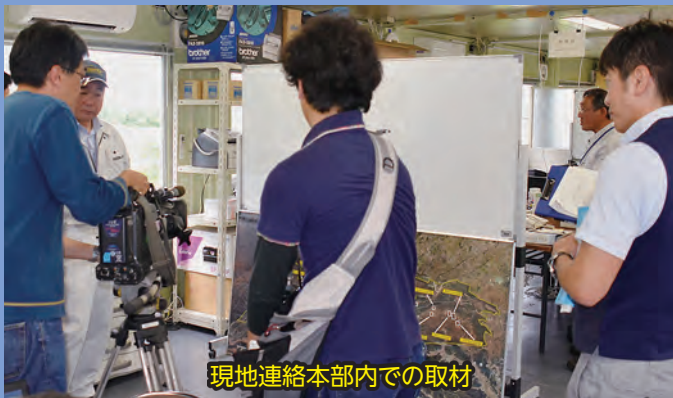
米軍実弾射撃訓練の円滑かつ安全な実施や地域の方々の不安解消を図るため、令和元年7月15日から8月9日までの間、陸上自衛隊王城寺原演習場内に「東北防衛局米軍実弾射撃移転訓練現地連絡本部」(本部長：藤井真企画部長)を設置しました。



現地連絡本部開所時の看板設置



報道陣の取材を受ける藤井本部長



現地連絡本部内での取材



局職員の業務風景

訓練見学会の開催

7月25日、米軍実弾射撃移転訓練の見学会が開催され、宮城県、演習場が所在する3町村(色麻町、大衡村、大和町)関係者及び報道関係者、計約40名が見学しました。



ロビンソン中佐(写真中央)による訓練概要説明



実弾射撃訓練



射撃統制所



155ミリりゅう弾砲



機関銃

当日は泥や水たまりが広がるなど足場が悪く、蒸し暑い中ではありましたが、ヘルメットと防弾チョッキを着用した見学者は、指揮官のリチャード H. ロビンソン中佐(第3海兵師団第12海兵連隊第3大隊長)による訓練概要説明、射撃統制所、装備品(155ミリりゅう弾砲、機関銃)及び砲4門による実弾射撃訓練を見学しました。

米海兵隊指揮官が地元3町村を表敬訪問

7月22日、米海兵隊訓練指揮官ロビンソン中佐は、地元の理解を得るため、演習場が所在する3町村(色麻町、大衡村、大和町)を訪問し、首長等を表敬しました。ロビンソン中佐は、「訓練の受入れと支援に感謝する。訓練に当たっては、安全に配慮し実施する」などと話しました。地元3町村からは、「良い訓練になるよう祈念する。地元住民への騒音等による影響に配慮し、特に夜間訓練は極力控えていただきたい」との要請に、中佐から「夜間訓練は必要不可欠ではあるが、必要最低限の夜間訓練となるよう努めたい」と述べました。



早坂利悦色麻町長への表敬



齋藤一郎大衡村副村長への表敬



浅野喜高大和町副町長への表敬

米海兵隊員がボランティア活動等を実施

8月2日、王城寺原演習場周辺地域の方々との交流を通じ、一層の日米相互理解促進を図るため、訓練を終えた約30名の米海兵隊員が宮城県大和町にある支援施設「あさいな」を訪問し、ボランティア活動を行いました。「あさいな」でのボランティア活動は、王城寺原演習場で訓練を開始した平成9年度以降、毎回実施しており、今回で17回目となります。

当日のボランティア活動は、真夏日となる厳しい暑さの中、2班に分かれて芝張り作業とビニールハウスの撤去作業を実施しました。芝張り作業では、約100平方メートルの斜面に芝生を敷き詰め、竹串と木槌を用いて芝生を仮止めしました。ビニールハウスの撤去作業では、力自慢の隊員により30分程度でパイプ基礎までスコップで掘り起こし、パイプを解体して撤去作業を行いました。どちらも根気が必要な作業でしたが、隊員たちは、汗をぬぐいながら、一生懸命作業に取り組んでいました。

施設側のはからいで昼食を共にした後、利用者と海兵隊員とのプレゼント交換などを通じて両者の交流の絆を深め、握手をしながら「また来てね」と施設の方々から声をかけられた隊員たちは、別れを惜しみつつ、施設を後にしました。



芝張り作業



ビニールハウス解体中



交流の様子

第39回「防衛セミナーin青森」(青森県青森市)の開催

7月11日、青森県青森市の「県民福祉プラザ」において、第39回「防衛セミナー」を開催しました。冒頭、セミナー前日の7月10日に着任した熊谷昌司東北防衛局長からの主催者側挨拶に続き、来賓の貝守弘青森県危機管理局長、前多正博青森市副市長から挨拶がありました。

今回は、防衛省地方協力局補償課の松尾友彦課長が「新たな『防衛計画の大綱』、『中期防衛力整備計画』」を、陸上自衛隊第9師団副師団長兼青森駐屯地司令の源弘紀陸将補(当時)が「陸上自衛隊の取組と地域との関わり」について、それぞれ講演を行いました。

当日は、約160名もの方々が両氏の講演に対して耳を傾け、「日本の防衛について興味を持った」「女性自衛官の活躍ぶりについて嬉しく感じた」「自衛官がどのように地域と関わっているのか意外と知らない部分もあると感じた」などの感想が寄せられました。

今後も、防衛政策や自衛隊の活動等について国民の皆さまに広くご理解いただけるよう東北各地で「防衛セミナー」を開催致しますので、是非ご来場下さい。



熊谷
東北防衛局長



青森県
貝守危機管理局長



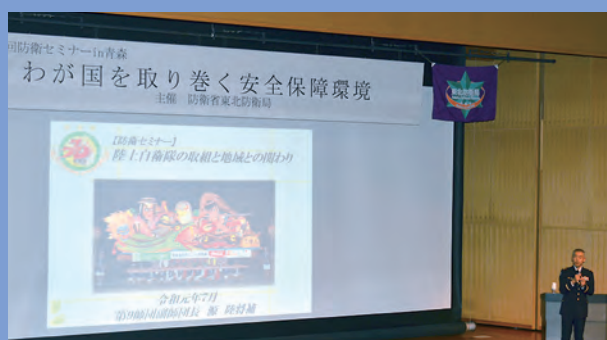
青森市
前多副市長



会場の様子



講演する
松尾補償課長



講演する
源司令

～ 式 次 第 ～

- 1 主催者挨拶 東北防衛局長 熊谷 昌司
- 2 来賓者挨拶 青森県危機管理局長 貝守 弘 氏(青森県知事代理)
青森市副市長 前多 正博 氏(青森市長代理)
- 3 講演 我が国を取り巻く安全保障環境
 - (1)新たな「防衛計画の大綱」「中期防衛力整備計画」
講師 防衛省地方協力局補償課長 松尾 友彦
 - (2)陸上自衛隊の取組と地域との関わり
講師 陸上自衛隊第9師団副師団長兼青森駐屯地司令(当時)
陸将補 源 弘紀

※ 詳しくは→
防衛省HP



日米交流事業「かかし作り交流プロジェクト2019 in つがる」

6月26日、27日の両日、青森県つがる市の車力体育センターにおいて、つがる市立車力小学校の児童、米陸軍車力通信所の米軍人及び航空自衛隊車力分屯基地の隊員により、日米交流「かかし作り交流プロジェクト2019 in つがる」が開催されました。

日米の参加者約90名は、12のグループに分かれ、伝統的な稲わら文化をもとに、新しいわら文化の創造を目指して地元で活動する団体から「かかし」の作り方を教わり、その共同制作を通して交流を深めました。参加者たちは、創意工夫によるオリジナルの「かかし」を制作し、完成後はグループごとに作品の発表会を行い、「みんなで仲良く作れたのでとても楽しかった」、「子どもたちと心温まる交流ができて良かった」などと笑顔で話しました。



つがる市ゆるキャラ「つがーちゃん」
も一緒に作り方をお勉強



協力しながら制作中



みんなで記念撮影



9月4日、車力小学校において、制作した「かかし」の表彰式が行われました。むらおこし拠点館フラット、つがる市生涯学習交流センター松の館において、地域の皆さんに投票していただいた結果を受け、全12作品に対して、金賞、銀賞、特別賞と記念メダルの授与が行われ、5年生チーム「Team "Mahalo"」による作品名「PUA」のかかしが、金賞に輝きました。

金賞を受賞した児童から、「まさか金賞を取れるなんてびっくり。米軍の人と交流できてすごく楽しかった」とのコメントがありました。

← Team "Mahalo" と金賞作品「PUA」

東北防衛局長 熊谷 昌司 【前職：地方協力局地方調整課長】

令和元年7月10日付で東北防衛局長を拝命しました熊谷昌司です。この大変重要な任務を担っていくのは大変名誉なことであると同時に、重責に身の引き締まる思いがしております。

当局管内には、その地理的重要性から、陸・海・空各自衛隊及び在日米軍の使用する重要な防衛施設が所在しており、当局は、これらの安定的使用の確保をはじめ様々な課題に取り組んでおります。

そんな中、先般、ミサイル防衛のためのイージスアショアの配備の必要性に係る地元説明においては、職員の大変不適切な説明態度があり、強いご批判を受けたことについてはしっかりと反省しなければなりません。

装備の必要性についてご理解をいただけるように、丁寧な説明に誠心誠意努めて参ります。

諸課題に対し、東北防衛局職員一致団結、心をひとつにして取り組んで参りますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



総務部長 坂部 誠（7月10日付着任）
【前職：人事教育局人事計画・補任課再就職等監視室長】



企画部次長 武田 和仁（7月10日付着任）
【前職：南関東防衛局企画部次長】



調達部次長 斉藤 修市（9月1日付着任）
【前職：北関東防衛局調達部調達計画課長】

農村と都市が共存した町 (岩手県紫波町)

紫波町HP



岩手県

紫波町

紫波町は岩手県のはほぼ中央に位置し、盛岡市と花巻市の中間にある人口約3万3千人の町で、昭和30年に1町8か村が合併して誕生しました。

町内全域に水田が広がり、町のはほぼ中央を流れる北上川を挟み、東部ではブドウやリンゴなどの果樹、西部ではもち米やソバ、小麦などの穀物や野菜などの栽培が盛んに行われています。また、酒造りの高い技術を持つ「南部杜氏」発祥の地で、町内には伝統を受け継いだ酒蔵が4社あり、受け継がれた技から造られた日本酒は高く評価され、その名を全国に轟かせています。

写真：リンゴ畑から望む岩手山

都市



【オガールエリア】

「オガール」は、紫波の方言で「成長」を意味する「おがる」とフランス語で駅を意味する「Gare(ガール)」を合わせた造語です。役場庁舎をはじめ、図書館やスポーツ施設、医療機関や託児施設、飲食店、アウトドアショップもあり、紫波の暮らしを提案するエリアです。

構成施設

紫波町役場、紫波町図書館、子育て応援施設、多目的スポーツ施設
クリニック(眼科、歯科、小児科)、保育施設、アウトドアショップ、居酒屋、産直施設、宿泊施設、バレーボールコートなど

ワイン



【自園自醸ワイン紫波】

県内一のぶどう生産量を誇る紫波町で栽培されるワイン専用品種を使用。地域の農家が栽培した良質なぶどうを【自園】、紫波町内のワイナリーで醸造【自醸】したワインです。

HP <http://www.shiwa-fruitspark.co.jp>
電話 019-676-5301

【あづまね温泉】

東根山のふもとに湧き出た天然温泉。浸かれば肌がつるつるになることから“美人の湯”として知られます。

「ラ・フランス温泉館」と「ききょう荘」の2つの施設で、宿泊と入浴が楽しめます。

【ラ・フランス温泉館】

HP <https://www.lafrance.co.jp/>
電話 019-673-8555

【ききょう荘】

HP <http://www.town.shiwa.iwate.jp/soshiki/1/2/4/600.html>
電話 019-673-7670

偉人



【野村胡堂・あらえびす記念館】

「銭形平次捕物控」の作者として、また音楽評論家「あらえびす」として有名な野村胡堂の作品や遺品を展示した記念館。映像化された胡堂の作品やあらえびすが愛したレコードを楽しむことができます。月に1回開かれるレコードコンサートも好評です。

HP <http://kodo-araebisu.jp/>
電話 019-676-6896

温泉



【地酒】

日本三大杜氏の一つ、南部杜氏発祥の地として知られる紫波町。現在も4つの酒蔵が伝統を継承しており、最近では米麹を使ったアイスクリームなど、ユニークな商品も人気です。

【「紫波(しわ)」って?】

斯波氏最後の当主、斯波孫三郎詮直(しばまごさぶろうあきなお)が「今日よりは紫波と名付けんこの川の石にうつ波紫に似て」と句を詠んだことが「紫波」の名の由来と伝えられています。

日本酒



装備品等の調達に関する業務を行う郡山防衛事務所

郡山市は首都圏から新幹線で約80分というアクセスの良さに加え、東北・磐越自動車道が縦横に交差していることから「人」「モノ」「情報」が集まる東北地方第3位の人口規模を誇っております。そのような立地環境の下、郡山防衛事務所は、東北6県に所在する企業が製造等を行った防衛装備品について、安全で高品質であるかを判定する「監督検査」業務を行っています。

今回、検査官がどのような監督検査を行っているか、3つの装備品を例に紹介します。

猪苗代湖から望む磐梯山

郡山防衛事務所では、企業が製造した弾薬が性能を満たしていることを確かめるために、下北試験場で射撃試験を行っています。射撃試験は危険を伴いますが、本事務所の検査官（自衛官）が射場指揮官となり、射撃全般に関する統制や事前に関係者に対して教育を行うことで、安全管理について細心の注意を払っています。弾薬の種類によっては、射撃試験が終了した後、重機を使用して地中1メートル深くに埋まっている弾薬を掘り起こし回収します。

このような射撃試験を経て部隊に弾薬が納品されます。



東北地方には陸海空自衛隊の制服や戦闘服を製造している企業が多く所在しています。それらの企業の生産現場では、大量生産を目的としたオートメーションではなく、1枚1枚の被服を人の手で丁寧に生産しています。しかしながら、陸上自衛官の新制服等は身長や体型に合わせて、37種類ものサイズに細分化されており、非常に製造に手間暇がかかっています。検査官は、サイズごとに仕様書の寸法どおりに製造されているか検査を行っています。



自衛隊が使用する救命胴衣を福島県内に所在する企業が製造しています。検査官は目で傷や糸のほつれが無いか確認をする他に大きく3つの検査を行います。1つ目は、救命胴衣に空気を入れて空気漏れが無いか確かめる加圧試験。

2つ目は、救命胴衣を実際に水槽に浮かべて、浮力を確かめる浮力試験。3つ目は、着用した状態にて救命胴衣の紐を引き、作動するか確かめる膨張試験。これらの試験を通して、救命胴衣の品質の検査を行っています。



郡山防衛事務所では、自衛官9名及び防衛事務官等3名が勤務しており、部隊に信頼性の高い装備品を送り届けることができるよう、定期的に勉強会や企業研修等を行い各職員のスキルアップに努めています。

「みやぎ県民防災の日」総合防災訓練に参加

6月12日、「みやぎ県民防災の日」総合防災訓練が実施され、宮城県が設置した災害対策本部に東北防衛局の連絡員を派遣しました。この訓練は、昭和53年6月12日発生の「宮城県沖地震」、平成23年3月11日の「東日本大震災」等の災害経験を基に、今後も起こり得る大規模地震・津波等に備えるため、「みやぎ県民防災の日」に合わせ、県、市町村、防災関係機関が一体となって、関係機関相互の連携強化を図ることを目的に実施されており、各自衛隊も参加しています。

当日は、訓練の想定の下、県や関係機関から報告された各市町村の被害状況及び自衛隊等の活動状況などを情報収集し、当局担当部署への連絡を行いました。

東北防衛局では、今後も地方公共団体が実施する防災訓練等への参加を通じて、国の関係機関及び地方公共団体等との連携強化を図り、災害等の各種事態が発生した際に迅速かつ的確に対応できるよう、引き続き取り組んでまいります。



対策本部



訓練の様子



自衛隊の活動の様子



当局連絡員



東北の主な自衛隊広報行事

【令和元年12月まで】

事前申込み等が必要なイベントもありますので、お問い合わせください。

開催日	イベント名	開催場所	問い合わせ先
10月13日(日)	福島駐屯地創立66周年記念行事	福島駐屯地(福島県福島市)	陸：福島駐屯地広報室 024-593-1212(204)
10月27日(日)	大和駐屯地定期演奏会 「まほろばコンサート2019」	大和駐屯地(宮城県大和町)	陸：大和駐屯地広報班 022-345-2191(201)
11月2～3日 (土・日)	東北方面音楽隊福島演奏会	福島県喜多方市喜多方プラザ	陸：東北方面総監部広報室 022-231-1111(2373.2374)
11月4日(月)	自衛隊弘前音楽会	青森県弘前市内	陸：弘前駐屯地広報室 0172-87-2111(205～207)
11月9日(土)	第43回第6音楽隊定期演奏会	山形県天童市市民文化会館	陸：第6師団司令部広報室 0237-48-1151(5374)
12月1日(日)	第32回秋田自衛隊音楽まつり	秋田県秋田市文化会館	陸：秋田駐屯地広報室 018-845-0125(208,219)
12月7日(土)	三沢基地クリスマスコンサート	青森県三沢市公会堂	空：第3航空団監理部広報班 0176-53-4121(3313)
12月14日(土)	クリスマスコンサート	青森県むつ市下北文化会館	海：大湊地方総監部広報係 0175-24-1111(2304)

